わ か 草

第４１回　平成２９年１月１日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂３-３-２５

新年のご挨拶

東京都立東部療育センター
院長　加我　牧子

新年の挨拶式にて
（2017年1月4日）

明けましておめでとうございます。二〇一七年新しい年が明けました。新年の東京は暮れに引き続いて見事に晴れ渡り、富士山もよくみえる場所が多かったようです。この一年がみなさまにとって実り多い、心にのこるものになりますように心から願っております。

東京都立東部療育センターは平成二十八年十二月、満十一歳の誕生日を迎えました。当センターは特に重度の重症心身障害児・者を長期入所、短期入所、医療入院の形で病棟におあずかりし、成人と乳幼児のための通所部門を置き、運動機能、知的機能、言語発達、行動面の発達の遅れなどさまざまな障害をお持ちの方々の外来診療を行っています。当センターは有馬正高名誉院長の障害児医療のご経験と知識を昇華する志のもとで、高度の医療と療育の知恵と技術、そしてハートをもって、スタッフ一同協力して利用者みなさまの命と暮らしを守り、高める努力を続けていきたいと思います。そして東部療育センターのスタッフ一同の経験と技術・知識を、同じように重い病気、重い障害をお持ちの皆様の医療や介護に関わる方々にも広くお伝えできるような取り組みを引き続き進めて参りたいと思います。

来年九月には東部療育センターは岩崎裕治副院長を会長として、江戸川区の「タワーホール船堀」で日本重症心身障害学会を開催することになりました。有馬先生の高い志と思いを、御参加くださる多くのみなさまとわかちあえる会にするため、岩崎先生を中心に、東部療育センターをあげて一同、協力して準備を進めて参ります。

昨年秋、カナダへの往復の時間込み、まる四日間の弾丸ツアーの末に、数十年来の夢だったオーロラに出会うことができました。改めて思い起こすと四年前の冬、フィンランドのマイナス二十六度の気温の中、オーロラを訪ねる旅は空振りに終わりましたが、色鮮やかなオーロラではないものの、実はレベル１のたしかなオーロラだったという確信をもつこともできたのも今回の収穫でした。

オーロラには強さのレベルが設けられていて、イエローナイフでは色鮮やかなカーテン状のひかりが乱舞するようなオーロラがオーロラ爆発ともいわれるレベル５、暗くて見える人と見えない人がいるくらいで、白い筋がうっすら見える程度のをレベル１としているようでした。

当然ながらオーロラはそこにひとがいてもいなくても、自然の時と場所を得れば、ざわめき、輝いているはずです。でも、ひとが出会えるオーロラは、出会いの時と所があってこそなので、オーロラのもとでの特別な時間は天からのプレゼントだと感じられ、言葉を失っていました。

数十年来の念願叶って
出会えたオーロラ
（カナダ）

自然のみならず人との出会いはいつも偶然ですが、かなりの確率で必然でもあるような気がします。昔の人はこの場、この時にしか出会えないひととの出会いを、「一期一会」と言い表しましたが、同じ場所で暮らし、同じ場所で仕事をすること、あるいは距離や時間が離れていても、心通う人との出会いは一期一会を超えて、長い高密度の出会いに進化していくことがあり、ありがたく、また心躍る経験にもなる気がいたします。学会は同じ関心、知識や経験、心意気を共有するひとたちの場ですので、私たちの重症心身障害児学会はかならず実りあるものにできると思います。忙しくなりそうですけどね！

二〇〇五年、当センター開所式で当時の石原慎太郎都知事は、東京都立東部療育センターについて、「日本人の生命に対する感性、価値観によって、人々が協力して当センターを誕生させたこと自体が人類の将来にとっての誇るべきモニュメントになりうると思う。」とのご挨拶をなさったとのことです。東部療育センター十一年間の背景にある重症心身障害医療と福祉の歴史の意味を考え、語り継ぎ、さらに深い思いとともに世界史の中における東部療育センターの歴史を紡いでいく時であると思います。今年も皆様のご協力とご支援をお願い致します。

オータムフェスティバル

十月五日、第十一回オータムフェスティバルが開催されました。乳幼児通所のみなさんのかわいい演奏でスタートです。ゲームではお相撲さんとダンスをしたり、一緒に写真を撮ったりして盛り上がりました。アトラクションでは沖縄民謡の力強い歌と演奏、フラダンスの情熱的な踊りに感嘆の声があがりました。作品展も個性豊かな作品がたくさん！フィナーレは素晴らしい職員バンド演奏で幕を閉じました。皆さん有難うございました。来年も盛り上がりましょう！

（二階西病棟）

写真上段　踊り子の二人と記念撮影
写真中段右　相撲アトラクションにて
写真中段左　フラダンスにみんな大興奮！
写真下段右　フィナーレをみんなで！
写真下段左　三線の音色に癒されました

よつぎ療育園との交流会

十一月十七日、プレイルームにてよつぎ療育園乳幼児通所との交流会がありました。

ぽれぽれからは十一名のお友達と保護者、よつぎ療育園からは三名のお友達と保護者、職員が参加し、にぎやかに行われました。準備体操から始まり、お互いに自己紹介をして活動をスタートしました。子どもたちが入り混じって、車いすでのじゃんけん列車をしたり、風船パラシュートをして遊びました。

昼食時は、保護者同士の交流会も開催し、女子会トークで盛り上がりました。負けじと子ども達も風船落としゲームで楽しみました。

最初は緊張した様子だった子ども達も、会が終了する頃には笑顔を見せあい、普段とは違う雰囲気を楽しんでいる様子でした。

（乳幼児通所）

よつぎ療育園とぽれぽれの
みんなで楽しく交流会♪

第十五回 国際知的・発達障害研究会議

発表をする岩崎副院長
（オーストラリア・メルボルン）

今年八月メルボルンで開催された国際知的障害研究会議に院長と出席しました。私は在宅支援についてのシンポジストとして重症心身障害の在宅コーディネーター育成プログラム開発について、院長は中年期ダウン症の認知機能につき発表しました。オーストラリア、ヨーロッパ、北米、日本等から多くの参加者があり活発な議論が行われました。

翌日、ビクトリア州担当者に障害者居住環境の話を聞くことができました。この地域では施設から地域への流れが中心で、二年以内に全員が地域へ移行予定とのことでした。

また、呼吸管理が必要な方も暮らせるグループホームの見学もできました。医療ケアができるのは州で一か所のみとのことで、各ユニットのスタッフは昼間二・五名、夜一名で、看護師は全体として一名が二十四時間体制で常駐していました。花いっぱいの庭に囲まれた閑静な住宅街にあり、四ユニットに分かれていて各ユニットに四名居住しておられ、呼吸管理の方が約半数でした。身体障害は重いものの認知面では意思表示のできる方々でした。各人の居室十畳、浴室八畳、リフト装備で、コールアラームはスタッフの持つ受話器に連動していて迅速な対応が可能なシステムでした。

（副院長　岩崎）

写真右）ビクトリア州プレストン市健康福祉部にて（オーストラリア）
（写真右から、岩崎副院長、Maree Bellville障害施設課長、Michael Nefflin部長代理、加我院長）

写真左）４人用のグループホーム
それぞれ玄関のある個人ユニットは中央部の大きな共用室に連続して作られている

全国重症心身障害日中活動支援協議会に参加して

十月六日、七日の両日、千葉の幕張において全国重症心身障害日中活動支援協議会がありました。今年のテーマは「連携」で、一日目は厚労省より重症心身障害児（者）の支援への法的改正案や今後三年間で訪問介護事業の拡大などを図っていくお話でした。

シンポジウムでは千葉県の取り組みをもとに「連携」について話し合われました。千葉県ではエリアに分けて中核となる法人が中心となり各施設や事業所と連携を密にとり、支援やバックアップの体制が考えられていました。

会場近くの海岸

二日目は「家族・地域」の分科会に参加し、近所の小学校や商店街の人たちとの日中活動を通じての交流や他施設と公共施設を利用して活動交流の発表を聞き、今後センターにおける地域交流や支援、日中活動のあり方を考えていきたいと思いました。

（通所係長　谷家）

重症心身障害児者施設職員研修会 看護管理研究会コースに参加して

障害児の母でもあるエイコ・ソラリスさん（左から二番目）トリオが、お世話になっていた看護管理の皆さんを癒してあげたいとボランティアで参加しました（交流会）

十一月三十日（水）から十二月二日（金）にわたり、平成二十八年度重症心身障害児者施設職員研修会　看護管理研究会コースが開催されました。全国一〇五施設から一三五名の看護管理者が会場のアジュール竹芝に参集しました。全体テーマは「ヒューマンケアに向き合う看護をめざして」とし、療育の基礎を築いた小林提樹先生や糸賀一雄氏・草野熊吉氏・大島一良先生等の思いを引き継ぎ、三人の先生を知る富永氏が講演しました。

また医療を取り巻く現状と、重症心身障害児者へのケアをよりよくするための看護管理では初めて日本看護協会理事である福井トシ子氏を迎かえ、広い医療界のなかでの重症児者のケアの充実のために、看護管理者としてのどうマネジメントするかについて講演をいただき、勇気を得ました。

パネルディスカッションでは、「最期までその人らしく」をテーマに、安部井氏は保護者の立場から、木内氏は訪問看護師として、等々力氏は相談支援の立場から、荒谷氏は緩和ケア認定看護師として、福水氏は臨床の医師として発言されて非常に深い内容となりました。

最終日は「重症心身障害児者の尊厳を守るために看護管理者として今何をすべきか」のグループ討議を行い、活発な意見交換が行われました。

三日間を通して本当に充実した学びの多い研究会でした。

（療育部長　藤野）

第四十三回 東日本施設協議会

第43回日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会のようす

十一月十日、十一日に新横浜国際ホテルで日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会が開催され、院長と事務長が参加しました。

一日目の開会式では、開催県である神奈川県から、今夏の津久井やまゆり園の事件を契機に県は「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定し、その実現に取り組んでいるとの挨拶がありました。

開会式に続き、聖マリアンナ医科大学感染症学講座の國島広之教授の「重症心身障害児者と感染症・ワクチンの話題を中心に」と題する講演が行われ、感染症予防には、スタンダードプリコーションの徹底や隔離など基本的な対策が重要であること、又、ワクチンで予防できるものはできるだけ事前の接種が望ましい等の話をされました。

その後、報告や協議が行われ、重症児施設の児者一体運営の問題を始め、施設運営に関わる色々な課題について議論されました。

二日目は、「様々な社会資源を利用して地域で生きる」をテーマとしたシンポジウムが行われ、入所ベッドが少ない神奈川県の事情から、診療所でのデイケアや病院でのレスパイト、訪問看護や多機能型施設を拠点とした在宅支援などの取組みが紹介され、地域の特性が感じられました。

閉会後の施設見学にて

（神奈川県・横須賀市）

閉会後の施設見学では、横須賀市の入所施設「ライフゆう」を見学しました。相模湾を見下ろす高台に建つ施設は、まだ開設して二年半の若さです。六十四床の小規模な施設ですが設備面は充実しており、運営面でも色々な工夫が見られました。

今回の協議会を通して、重症児施策は地域によって独自の取組み方があるということを学び、今後を考える糧となりました。

（事務長　水野）

第二十七回 重症心身障害療育学会学術集会に参加して

十月十三、十四日の二日間熊本にて第二十七回重症心身障害療育学会がエルセルモ熊本で開催されました。学術大会のプログラムはシンポジウムとして横地分類A3・A4の日常生活活動四題、熊本地震報告三題、口演は、直接的療育、職員意識調査など計八十三題でした。

発表者の皆さん

（熊本・エルセルモ熊本）

療育部からは二題の発表があり、堂々と意見交換を行っていました。発表は個別活動の展開や施設外活動拡大についてなどが多く、様々な取り組みがなされていることが分かり、センターでも活かせるのでは?と感じられるものもありました。

また、高齢化に伴う問題やターミナルケア、虐待防止、身体拘束についての取り組み等の話題もあり、療育施設での課題の多さに圧倒されつつも興味深いものでした。

（教育師長　清水）

施設学見

タイのシリントン国立医療リハビリテーションセンター視察

シリントン国立医療リハセンターの皆様と外来の川口翔さん（中央）とお母様

十月十二日にタイのシリントン国立医療リハビリテーションセンターから医師、理学療法士、作業療法士等、計六名が、車いす作製の流れ・作製時の専門職と車いす業者の役割を知る目的で見学にいらっしゃいました。

当センターの事業内容については加我院長から説明後、理学療法室で患者様二名の車いす等の適合調整の様子を見学しました。

（理学療法士　小山）

施設学見

デンマークの障害者局長がセンターを視察

十月十四日、デンマーク社会福祉・内務省障害者局長のハナ・スティング・アンダーセン氏が当センターの視察に来られました。

デンマークはノーマライゼーションの発祥の地で、障害者福祉の充実した国ですが、アンダーセン氏は大変興味深く視察され、「これほど重い障害の方を見ていて、アラームが鳴っても動揺せず落ち着いてテキパキと対応している職員の行動は素晴らしい。」と感銘して帰られました。

（事務長　水野）

ハナ・スティングアンダーセン氏（中央）と記念撮影

クリスマス会

今年度も各病棟・通所の個性豊かなクリスマス会が開催されました。今回は創作活動で作ったアイテムを利用した点灯式やダンス、楽器演奏、サークル活動の発表など、利用者様の日頃の活動の成果を垣間見ることができる内容が多く企画されていました。緊張した方も多いのでは??通所では今年流行の「PPAP」を保護者の方々が発表して下さり、盛り上がったようです。皆様笑いの絶えない一日となったことでしょう。

（二階南病棟）

アロハ～（職員によるフラダンス）

みんなでひとつになりました
（曲：世界に一つだけの花）

サンタとトナカイが
今年も来てくれました！

今年流行したPPAPを踊る
通所保護者のみなさん

↑今年も楽しい
クリスマス会♪

←ももクロ？

いつもおいしいケーキ
をありがとう！
（栄養科から）

劇団ちごゆりによる公演
（演目：ライオンキング）

院内研修

院内研修を行って

平成二十八年十月十八日、当院研修室にて「重症心身障害児（者）の呼吸管理」と題し、国立病院機構八雲病院診療部長石川悠加先生に講演頂きました。石川悠加先生は重症（児）者の呼吸器管理の専門家であり、最新の海外での長期在宅人工呼吸器ガイドラインを紹介して頂きました。

ご自身の豊富な臨床経験を踏まえ八雲病院での呼吸器ケアの現状、さらに最近関心が高まりつつある非侵襲的陽圧換気導入の進め方を具体的にわかりやすく職員に解説頂きました。

これらの研修成果が当施設利用者にも適切に反映されますよう願っております。（医局長　荒井）

講演して頂いた
石川悠加先生

かもめ

第三回学習発表会

十一月九日～十一日に墨東特別支援学校かもめ分教室「第三回学習発表会」をプレイルームで行いました。小学部は『かもめーンの音楽隊』、中学部は『リオでじゃないよ　かもめンピック』、高等部は『かもめ～スター誕生』と題した創作劇を発表しました。当日は、児童・生徒十八名全員が参加でき、会場いっぱいの入所者の方々やセンターのスタッフの方々からの拍手や声援を受け、普段授業で頑張っていることを披露することができました。

学習発表会の様子
（プレイルーム）

全国重症心身障害児(者)を守る会 第二十六回関東・甲信越ブロック大会

九月二十四～二十五日に、「守ろう　みんなの力で　大切ないのちを」をテーマに全国重症心身障害児(者)を守る会の関東・甲信越ブロック大会が山梨県笛吹市で開かれ、二七〇人が参加しました。

一日目は、社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会副理事長による基調講演「守る会の過去・現在・未来～子どもたちのいのちを守るために～」において、守る会(親の会)発足の経緯から重症心身障害児の親の苦悩、様々な理解者や協力者の功績により現在の環境が整えられてきたこと、誤った法改正によって重症心身障害児(者)の生活が脅かされたりしないようにするために、引き続き守る会(親の会)の結束が必要不可欠であることを力説されました。

また、シンポジウムでは、平成五年に制定された山梨県障害者幸住(こうじゅう)条例を充実させるため昨年改正が行われたことや、山梨県の特別支援教育の現状が報告され、甲府病院における療育活動の紹介の中で「僕の気持ち」という歌を聞かせていただきました。

二日目は、常務理事より中央情勢の報告、守る会(親の会)副会長より親の会報告、意見発表と続き、守る会(親の会)の力強い結束を感じる素晴らしい大会でした。

(経営企画係　秋山)

ボランティア茶話会&研修会

十月二十二日にボランティア茶話会&研修会を開催しました。普段病棟や通所で活動されているボランティアさん五名と、職員(ボランティア委員)十名が参加しました。

研修会では、当センターの言語聴覚士と臨床心理士を講師に、利用者さんとのコミュニケーション、かかわり方についての研修を行いました。普段の活動の中でボランティアさんが感じている疑問点や対応方法等について質問が出た他、職員が普段どのように接しているのか、心掛けていること等お話をしました。

茶話会では、活動歴五年以上のボランティアさんに感謝状授与を行い、その後はボランティアさん同士や職員との懇談・意見交換を実施しました。

普段の活動時にはなかなかゆっくり話をする時間が持てないため、このような研修会や茶話会を実施することで、普段の活動の中での不安や疑問等が解消できる機会になったかと思います。

今後も、ボランティアさんが安心して、長く活動していただけるよう努めていきたいと思います。

(地域療育支援室)

東部あれこれ

十月から十二月の話題です。

【十月】

十月に入り涼しい気候の中で、オータムフェスティバルを始めバスハイクや遠足、グループ外出など秋の行事を楽しみました。また通所では秋の延長療育が行われ、いつもと違う活動を楽しみました。

下旬には、今年度から新たに始めた「保育所等訪問支援事業」で大島町の保育所を訪問し支援しました。

十月末には、都立両国高校附属中学校の生徒四名が職場体験に訪れ、三日間の療育活動を体験し医療・福祉に興味を持って帰りました。将来この世界に入ってくれることを期待します。

【十一月】

九日に木枯らし一号が吹いたかと思うと、二十四日には初雪が降って何と十一月の東京では観測史上初の積雪を記録し、早い冬の到来に驚きました。

そんな中、先月に引続きバスハイクやグループ外出が行われたほか、十七日に乳幼児通所の交流会が行われ、よつぎ療育園のお友達と楽しい交流ができました。

二十二日には運営協議会が開かれ地域の行政や医療福祉関係の方々から、地域支援や連携などについてご意見をいただきました。

【十二月】

一日は当センターの十一回目の誕生日。開設記念特別メニューの給食が振舞われ、皆で祝いました。

かもめ分教室では、楽しかった二学期の学習・行事が無事終了し、二十三日から冬休みに入りました。

今年も最後の日、大晦日の夜はみんなで年越しそばを食べて一年を締めくくりました。

二〇一七年も好い年でありますように！

【編集後記】

明けまして、おめでとうございます。新春を新たな気持ちで迎えられた事とお喜び申し上げます。「一年の計は、元旦にあり」といわれますが、これは、何ごとも初めが肝心でしっかりと計画を立てて物事を始めればよい結果が得られるということです。職員一同一丸となり利用者の方々のために、しっかりと計画を立てて、より良い療育環境を提供できるよう、気を引き締めていきたいと思います。

今年一年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ